

開倫塾
塾長 林 明夫

- A : (林明夫。以下省略)「目標なくして成果なし」。目標を決めてください。おすすめは、「1教科でも多く100点を取る」です。「勉強に遠慮は不要」。全教科100点満点を目指してください。
- A : もう一度言います。一番大切なのは、この教科は100点をとるぞと決めることです。各教科、何点取るぞと、目標をはっきり決めることです。「目標なくして成果なし」、ノートに目標とする点数を書きましょう。中3生や、高校生は、全教科の目標点数を、紙に書き、机の上に貼り付けましょう。
- A : ①学校の教科書、②学校の問題集、③学校の教材、④学校の授業ノート、この4つについて、定期試験の範囲の内容を、「スミからスミまで、一語残さず、よく理解したうえで、ひたすら覚える。身に着ける」こと。これが大切です。試験には何が出るかわかりません。そこで、「スミからスミまで、一語残さず」が「コツ」です。
- A : 違います。覚える前に「理解」が大切です。意味がよくわからないこと、十分理解していないことをひたすら覚えても、試験が終わればすぐに忘れてしまいます。開倫塾の塾生の皆さんは、一生に一度しかない貴重な青春時代の、貴重な時間を、定期試験の勉強に充てているのですから、勉強している内容は、まずは十分に理解したうえで、身に着ける努力をしていただきたいと希望します。大切なのは、これはどのようなことかという「理解」です。
- A : 今学んでいることが、どのようなことか、うんなるほどと、よくわかること、腑に落ちること。これが「理解」です。「ものごとの本質」とは何かを知ること、ともいえます。
- A : 学校や、開倫塾の先生の授業を、手を机の上に置き、大切なことはメモを取りながら、先生の目をよく見て、真剣にお聞きすることが第一。
教科書、教材、授業ノートを、一語一句おろそかにしないで、よく読むこと。読んでいてわからないことばがあったら、辞書や、用語集、学年別参考書を用いて調べること。調べたことは、ノートに書き写し、その場で覚えることです。これが第二。
計算や問題は、まずは、ノートに、自分の力で解くこと。よくわからない計算や問題は、授業

中、先生のお話をよくお聞きし、なぜそのような答えになるかを「理解」する。本の解答や解説は、先生の授業をお聞きする態度で、一語一語でいねいに読み、なぜこのような答えになるのかの「理解」に努め、ノートに書き写す。これが第三。

「スミからスミまで」まずは「理解」してくださいね。

A : 開倫塾では、「一度理解したことを、スミからスミまで正確に身に着けること」を「定着」といいます。定着に抜群の効果があるのが「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの練習です。開倫塾では、この3つの練習のことを「定着のための三大練習」と読んで、大切なものとして、塾生の皆様におすすめしています。

「練習は不可能を可能にする」という教があります。中学に入る前にはテニスをするのができなかったのに、中学に入学後、テニス部に入り、練習を積み重ねると、中学3年生の夏ころには、テニスの試合に出場できるまでになります。

勉強も、スポーツと同じです。「定着のための三大練習」を積み重ねると、一度理解したことをスミからスミまで身に着けることが可能になり、定期試験で100点満点を取ることができます。「定着のための三大練習は定期試験で100点満点を可能にする」といえます。

A : 「音読練習」とは、一度「理解」したことを、スラスラと、よく読めるようになるまで、大きな声で、繰り返し、読むことです。(小さな声でもOKです)大切なことは、何も見ないで、いえるまでにすること、「暗唱(あんしょう)」を、「音読練習」の目標にしてください。

①英語の教科書の本文や重要語句、②数学の定理・公式、③理科の原理・法則、ものの名前④社会の、地名、歴史上の出来事、重要条文、⑤国語の名作の最初の数行、漢字など。「大きな声で、読んで、読んで、読みまくる」が、「音読練習」のコツです。今まで「音読練習」をしていなかった人は、「音読練習」だけでもよい点数が取れますよ。

Q9 : 「書き取り練習」とはなんですか。

A : 「書き取り練習」とは、「音読練習をして、スラスラいえるようになった内容を、楷書(教科書の書体)で、書き順も含めて、正確に書けるようになるまで、繰り返し、書く練習をすること」をいいます。書取り練習の目標は「暗写(あんしゃ)」つまり何も見ないで、書けるようにまで練習することです。「暗記」とも言います。

字はできるだけ美しくかけた方がいいですが、書取り練習中はそうもいってられませんね。「書いて書いて、書きまくる」が、「書き取り練習」のコツです。今まで「書き取り練習」をしていなかった人は、「暗写」ができるまで練習をすれば、一気に点数が上がります。

A : 「計算・問題練習」は、開倫塾では、「計算・ポチ・問題練習」と呼びます。まんなかの「・」は、「ポチ」と読んでくださいね。「計算・問題練習」とは、「なぜそのような解き方をするのか、なぜそのような解答になるのかをよく理解した、計算や、問題について、その計算や、問題を見た瞬間に、パパパと条件反射で、正解が出てくるまで、繰り返し、解く練習をすること」をいいます。

例えば、 $5 \times 4 = 20$ という計算でしたら、まずは5に4を掛けるとはどのようなことかをよく理解する。そのうえで、 5×4 という計算問題を見た瞬間に、パパパと条件反射で20という正解を出せるようにすることです。条件反射で短時間で正解を出せる計算や問題が多ければ多いほど、応用問題を解くのに試験時間使うことができます。

この3つの練習だけで、学校の定期試験は、全教科、100点満点が取れます。

A : 生きていて一番悲しいのは、今やっていることの意味や、価値(大切さ)がわからないことです。学校で勉強していて、学校で勉強していることが役に立つかどうか、よくわからないと、あまり勉強する気持ちにもなりませんよね。

学校の定期試験も、試験があるから勉強をしなければと思うだけで、その意味や、価値(大切さ)がわからなければ、ただ何となく試験を受けるだけで、あまり本気になることもないかもしれませんね。その意味で、この率直な疑問は、素晴らしいと思います。高く評価いたします。

今塾生の皆様が学校で行っている全ての教科の勉強は、すべて役に立ちます。

どこで役に立つのか。学校の全ての教科の勉強は、積み重ねで出来ています。

ひとつひとつ科目の学問の体系にそってできていますので、今の学年で勉強していることは、次の学年や、上級学校に進学して、すべて役に立ちます。

小学校で学んだことは、中学校で役に立ちます。中学校で学んだことは、高校で役に立ちます。高校で学んだことは、大学や、短期大学、専門学校、専修学校で役に立ちます。大学で学んだことは、大学院で役に立ちます。

小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院で学んだことは、すべて社会で役に立ちます。学校で学ぶことで社会で役に立たないことは一つもありません。

学校での勉強は、全て役に立つからこそ、国や地方自治体(県や市・町)は、国民からの貴重な税金(血税といいます)を教育に用いているのです。保護者の皆様も、教育費用を支払っておられるのです。

学校の定期試験にはどのような意味があるか。定期試験を活用して、それまで学んだことを、もう一度学び直し、十分に理解し、定着させ、次の学習内容に進むという意味があります。新しいことを100%理解するには、それまで学んだことを100%理解し身に着けることが、とても役立ちます。

A : 学校の定期試験を含め、すべての試験を受けるときに大切なのは何か。「自己責任」「自助努力」「あきらめたらおしまい」という基本的な「生き方」「態度」です。「自分の未来は自分で切り開く」がんばって、定期試験にチャレンジしてください。

2016年5月3日(火)憲法記念日、10時05分記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)